

## 平成 22 年度 教育課程編成にあたって

### 中 技術・家庭科 (技術分野)

#### 1 平成22年度に求められる取組

##### (1) 年間指導計画の作成

- ① 技術分野のAからDについて、すべての生徒に履修させるように、3学年間を見通した全体的な指導計画を作成する。
- ② 技術分野の内容A(1)については、3学年間を見通すガイダンス的な内容とし、第1学年の技術分野の最初に履修させる。
- ③ 技術分野の各項目に担当する授業時数及び履修学年は、指導内容、地域や学校の実態、生徒の実態等に応じて適切に配列する。
- ④ 指導計画に評価計画を組み込み、指導と評価の一体化を図る。

##### (2) 単元や教材の開発

- ① 現行の学習指導要領に該当する学年においても、改訂の趣旨を踏まえて、題材や指導内容の改善を図る。
- ② 必修化された指導内容について、教材整備の確認とともに、学習環境の整備に努める。
  - 「生物育成に関する技術」の指導に必要な備品、消耗品費、実習場所の確認と検討。
  - 「生物育成に関する技術」に関する題材・教材の検討。
  - 「プログラムによる計測・制御」に関する題材・教材の検討。

##### (3) 配慮すべきこと

- ① ガイダンスは、技術について考えさせる、気付かせる、関心をもたせるのがねらい。知識の評価等は行わない。
- ② 技能の習得だけでなく、能力をはぐくむ題材を設定する。
- ③ つくることを通して何をを目指すのかを明確にする。
- ④ 工夫し創造する力をはぐくむ「ものづくり」を重視する。
- ⑤ 言語活動は、教科横断的に取り組む活動だけでなく、技術分野独自の活動を重視する。
- ⑥ ネットワークの仕組み、プログラムによる計測・制御、栽培等を適切に指導できるように、スキルの向上を図る。

#### 2 教育課程編成上、参考となる取組例

##### (1) 指導項目間の関連を図った取組

※プランターの製作→LEDライトを利用したイチゴの栽培→レインボーライトの制御等

##### (2) プログラムによる計測・制御の事例

※虫型ロボット～ワンダーボグ～を教材としたコンピュータ制御の学習等

#### 3 教育課程編成上のQ&A

Q1 技術分野特有の言語活動とはどのような活動か。

A1 ○ 実習等の結果を整理し考察する活動。

○ 設計図などの図表、ものづくりに関する概念などを用いて考えたり説明したりする活動。

○ 情報通信ネットワークや情報の特性を生かして考えを伝え合う活動。

○ 設計図、製作行程表、フローチャートを作成する活動等。

Q2 「生物育成」の指導に関して、題材を設定する上の留意点は何か。

A2 ○ 食料や燃料の生産、環境整備など、目的に応じた管理方法を知らせる題材であること。

○ 目的とする生物の育成計画・管理作業・振り返りをとおして、生物育成に関する技術が果たしている役割について考えさせる題材であること。